



日本のワクチン対策は後進国？

客員相談役 藤井 基之



冬はインフルエンザの流行シーズンですが、今年は例年の季節性インフルエンザに加えて新型インフルエンザの流行が心配され、新型インフルエンザ対策本部が、国内産ワクチン二七百万人分、海外からの輸入ワクチン五千万人分を確保することとしました。我が国では一九九四年、予防接種法が改正されて小児に対するインフルエンザワクチンの義務接種が廃止されたこともあって、それまで七社あったインフルエンザワクチンメーカーが三社に減ってしまいました。また、インフルエンザワクチンは有精卵でウイルスを培養して製造するのですが、そのワクチン用鶏卵の養鶏農家も減ったため、生産力が小さくなってしまいました。よっ

て、インフルエンザワクチンの大半を輸入に頼るしかなくなっているのです。

ところで麻疹は、以前は人が一生の間に一度はかかるものなどと言われていましたが、今日では有効な麻疹ワクチンがあり、ほぼ完全に予防することができず。ところが、実は、日本は「麻疹輸出」などと陰口されるほど、欧米諸国と比べて麻疹が多く発生しています。ヨーロッパやアメリカでは、ワクチン接種（接種率九五％）によって二〇〇六年にはほぼ発生率はゼロとなったようですが、日本ではワクチン接種率が低く（接種率四〇〜五〇％）、今でも毎年二、三万人（実際には十万人とも）の患者が発生しています。つ

瓜の類、かし類、砂糖類、しいたけ、わさび、らっきょう、ところてん、ネギ類、果物・・・。

い二、三年前にも小児時代にワクチン未接種であった高校生や大学生の間に麻疹が流行し、問題となりました。さて、文久二年（一八六二年）、幕末。開国が攘夷（じやうい）かで日本中が大騒ぎのなか、東海道を帰藩途中の薩摩藩島津久光の隊列に英国人が馬で入り込み、怒った薩摩藩士がこれを殺傷、生麦事件という国際事件に発展しました。と、ここで生麦事件を語るつもりではありません。この文久二年、江戸では麻疹が大流行していました。二〇数万人もの患者が発生し、多くの死者もでたとわれ、安政のころのコレラの大流行にも匹敵する大問題となりました。

当時のことですから、その原因もわからず、ましてワクチンなどありませんでしたから、症状を軽くするまじないの方法。とか、「麻疹養生禁物」、「麻疹養生法」などという内容のものが大半でした。

食べてよいモノ・・・たくあん漬、白玉、かつお節、くるまめ、冬瓜、いんげん、くわい、むぎめし、あづき、ながいも、人参、やくふ、大根、かぶ、ゆり、シジミ汁・・・。

救うために必死だったようです。さて、感染症に対する有効なワクチンが開発されている今日、先進国を自負する日本が「麻疹輸出」であったり、新型インフルエンザワクチン必要量の三分の二を海外に頼らなければならぬという現状は、恥ずかしい限りです。私はしばしば国会で訴えてきたのですが、伝染病・感染症対策は、国家防衛対策の一環、国はしっかりと予防体制を整えてほしいものです。

そんな中、たまたま江戸に出ているある村の名主さんが村に書き送った手紙で、麻疹養生心得として、食べてよいもの悪いものをあげています。

どういふ根拠で、このような区分けをしたのかわかりませんが、名主さんは、小前の衆（一般の村人）まで行き届くように、と、村の人々を麻疹から

まず食べてはいけないモノ・・・魚類、鳥類、冷や水、酒の類、貝類、イモ類、

瓜の類、かし類、砂糖類、しいたけ、わさび、らっきょう、ところてん、ネギ類、果物・・・。

救うために必死だったようです。さて、感染症に対する有効なワクチンが開発されている今日、先進国を自負する日本が「麻疹輸出」であったり、新型インフルエンザワクチン必要量の三分の二を海外に頼らなければならぬという現状は、恥ずかしい限りです。私はしばしば国会で訴えてきたのですが、伝染病・感染症対策は、国家防衛対策の一環、国はしっかりと予防体制を整えてほしいものです。

ふじい もとゆき
藤井 基之

- 生年月日 昭和22年3月16日
- 選挙区 参議院比例区
- 当選回数 1回
- 出生地 岡山県岡山市
- 趣味 音楽・読書
- 個人ホームページ

http://www.mfujii.gr.jp/

- その他 薬学博士・薬剤師
- 私の政治信条

私の政策の柱はA(エイジフリー)B(バリアフリー)D(ドラッグフリー:薬物乱用のない社会)社会創りです。

高齢者も、障害を持つ方も、国民誰もが安心して暮らし、元気で生活を送ることのできる長寿社会を創るために何が必要か、を政治活動の根底においています。

好きな言葉「昨日の夢は、今日の希望、そして明日の現実」

- 活動報告

参院議員厚生労働委員会理事として、食品安全確保のための食品衛生法改正、健康増進法改正、薬事法改正、薬剤師法改正、クリーニング業法改正、国民年金法改正等に関与。

- 経歴

昭和37年 岡山大学教育学部附属中学校卒業
昭和40年 岡山県立岡山操山高等学校卒業
昭和44年 東京大学薬学部薬学科卒業
昭和44年 厚生省入省
平成9年 厚生省退官
平成9年 財団法人ヒューマンサイエンス振興財団 専務理事

平成12年 日本薬剤師連盟 副会長
社団法人日本薬剤師会 常務理事

平成13年 参議院議員

平成16年 厚生労働大臣政務官
(平成16年9月~平成17年11月)

平成19年 日本薬剤師連盟 顧問

- その他

慶應義塾大学薬学部 客員教授
昭和大学薬学部 客員教授
東邦大学薬学部 客員教授
新潟薬科大学 客員教授
京都薬科大学 客員教授
近畿大学薬学部 客員教授
千葉大学薬学部 非常勤講師